

家畜衛生情報

香 川 県 畜 産 課
 TEL(087)832-3426~8 FAX(087)806-0204
 香 川 県 東 部 家 畜 保 健 衛 生 所
 TEL(087)898-1121 FAX(087)898-9558
 香 川 県 西 部 家 畜 保 健 衛 生 所
 TEL(0877)62-0020 FAX(0877)62-3299

平成29年度 畜産施策の概要

最近の家畜衛生をめぐる情勢は、平成28年11月以降、高病原性鳥インフルエンザが国内9県12農場で発生し、約167万羽が殺処分されました。このように危機管理が最重要となっている中、新年度を迎え県では、殺処分等防疫措置に従事する県庁内の防疫従事予定者の名簿の更新や、庁内の関係課による連絡会議を開催するなど、重大な家畜伝染病が発生した際に迅速・的確な初動対応が行えるよう準備しています。

一方、飼料価格や肥育素牛の価格高騰等に伴う収益性の悪化により、経営戸数や飼養頭数の減少が懸念されている中、県は国の畜産クラスター事業等を活用し、規模拡大や新技術の導入により、畜産農家の経営基盤と収益力の強化を図っています。

また、県が平成28年3月に策定した「かがわオリーブ産業強化戦略」では、基盤となるオリーブの生産拡大とともに、オリーブ牛やオリーブ豚・オリーブ豚等の高品質で特長のある畜産物のブランド力強化を進め、多様な流通業者や消費者のニーズに対応し、継続的販路確保を図るために戦略的な取組みを展開しています。特に、基幹商品であるオリーブ牛については、生産頭数を平成32年度までに3,000頭に引き上げることを目標としており、昨年に引き続き優良繁殖雌牛の導入支援と酪農家の乳牛への受精卵移植を積極的に推進するとともに、発情発見装置などのICTシステムの導入経費を助成し、香川県産の「オリーブ牛」の増頭を図ります。そして、今年度は第11回全国和牛能力共進会が9月に宮城県で開催されます。県代表牛の活躍により、オリーブ牛の名声を全国に轟かせることが期待されています。

酪農家に対しては、安全でおいしい牛乳を生産し、経営を安定化させるために昨年度に引き続き県、農協、乳業メーカーが一体となって総合的な検査、指導を行います。

今年度も、国の施策の積極的な活用を努め、価格安定制度等を支援するとともに、県予算の重点的な配分による生産から流通・消費にわたる総合的な施策を実施し、本県畜産の振興を図ってまいります。

疾病情報

家畜伝染病・伝染性疾病発生状況(近県)

疾病名	畜種	発生場所	発生時期	発生戸数	発生頭羽群数
ヨネ病(法定)	牛	広島県、鳥取県、島根県、高知県	H28.11月~12月	4	4
結核病(法定)	牛	愛媛県	H28.11月	1	1
牛白血病(届出)	牛	兵庫県、岡山県、広島県、鳥取県、島根県、山口県、愛媛県、徳島県、高知県、香川県	H28.11月~H29.2月	114	127
牛ウイルス性下痢粘膜病(届出)	牛	兵庫県、鳥取県、山口県	H28.11月~H29.2月	5	5
破傷風(届出)	牛	島根県、香川県	H28.12月~H29.2月	2	2
牛サルモネラ症(届出)	牛	広島県、徳島県	H28.12月	2	2
牛丘疹性口炎(届出)	牛	兵庫県	H28.11月	1	1
豚丹毒(届出)	豚	兵庫県、広島県、鳥取県、愛媛県、徳島県、高知県、香川県	H28.11月~H29.2月	37	74
豚流行性下痢(届出)	豚	愛媛県	H29.1月~H29.2月	1	発生頭数:205 死亡頭数:66
サルモネラ症(届出)	豚	広島県	H28.12月	2	4
鶏痘(届出)	鶏	広島県	H28.12月	2	3
鶏マイコプラズマ病(届出)	鶏	岡山県	H28.11月	1	3
バロア病(届出)	蜜蜂	香川県	H29.2月	1	1
アカリダニ症(届出)	蜜蜂	兵庫県、広島県、鳥取県	H28.11月~H29.2月	4	4

牛の分娩間隔短縮のためには基本が大切です (家畜人工授精優良技術発表全国大会から)

兵庫県の共済組合家畜診療所が、S市内の黒毛和種繁殖農家11戸（平均分娩間隔430日）を対象に、分娩間隔が長くなる原因を調査した結果、2つの原因がわかりました。

1つは、飼養管理（栄養管理）が適正な農場に比べて、給与飼料が不足したり、過剰な農場は、分娩間隔が長くなる傾向があることがわかりました。

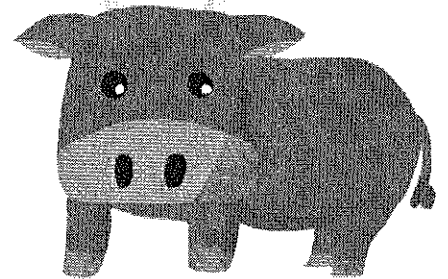
2つめに、農場の繁殖管理の方法が繁殖成績に大きく影響していることがわかりました。具体的には、①繁殖台帳の整備、②こまめな記録、③次回発情の確認、④こまめな妊娠鑑定の依頼、⑤早期繁殖健診の依頼の5項目がきちんとできている農場ほど、分娩後の初回授精日数が短く、発情発見率が高くなる傾向がありました。

この調査結果をふまえ、分娩間隔の長い農場に対して、飼養管理指導に加えて、農場ごとに全個体の繁殖台帳を作成、繁殖カレンダーと併せた活用法を指導しました。

このことにより、各農場での繁殖管理に対する意識が向上し、発情発見率が高くなり、初回受精日数が12.2日短縮しました。今後は、分娩間隔の短縮が見込まれます。

分娩間隔短縮のためには、適正な飼養管理とこまめな繁殖管理という基本的なことが大切であることが再確認できた事例でした。

牛飼養農家の皆さん！！ 今一度、基本を見直しましょう！！



鶏クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症の発生とその対策について (中国・四国ブロック家畜保健衛生業績発表会から)

鶏クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症は、平飼いの鶏舎で発生しやすい細菌感染症で、血便や急死などの症状がみられ、死亡率は5～50%程度です。原因菌は、熱・乾燥・薬剤に強い芽胞菌であるため、有効な消毒薬は、塩素剤、グルタルアルデヒド、石灰などに限られています。そのため、農場で使用している消毒薬の種類によっては、細菌が常在化し、繰り返し発生することがあります。その典型的な事例が、徳島県から報告がありましたので紹介します。

肉用鶏無薬飼育農場で、平成28年2月と4月に入雛した2つの鶏舎で約3週齢から死亡し始め、累計死亡率は10%近くになりました。家畜保健衛生所の病性鑑定の結果、『NetB』という毒素遺伝子を保有した、鶏クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症であることが判明し、農場内まん延を防ぐために全鶏舎内外の水洗・消毒を徹底しました。しかし、その後7月に入雛した別の鶏舎で発生し、14～33日齢で41.2%が死亡しました。このため、細菌の特性を管理者に説明し、鶏舎床面への消石灰塗布と鶏舎周囲への消石灰散布、鶏舎内温度管理の徹底を指示しました。この対策により、その後の鶏群では発生することなく推移しています。今回の細菌は、『NetB』を保有するため、生菌製剤での沈静化が難しく、適正な消毒を実施していなかった事、育雛中初期の温度管理が十分でなかった事も重なり、発症期間が長期化したと考えられました。効果のある消毒薬を選択するという消毒の基本と飼養管理の基本を再認識させられる事例でした。

畜舎内外の消毒について疑問な点があれば、お近くの家畜保健衛生所に相談してください。



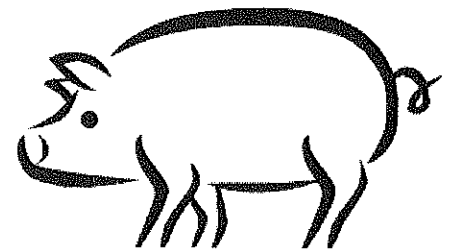
国内初の豚の悪性カタル熱について (中国・四国ブロック家畜保健衛生業績発表会から)

悪性カタル熱には、羊が自然宿主であるヒツジヘルペスウイルス-2の感染によるヒツジ随伴型と牛カモシカ（ヌー）が自然宿主であるオオカモシカヘルペスウイルス-1の感染による牛カモシカ媒介型があり、どちらも主に牛などの反芻動物が感染・発症します。これまで豚の発生報告が海外ではありましたが、平成28年3月に鳥取県で国内初の豚の悪性カタル熱の発生がありました。

発生農場は、羊、山羊、ミニブタなど複数種の動物を飼養する教育農場で、発生の数カ月前に羊を県外から導入し、ミニブタと同じ畜舎で飼養していました。

発生の概要は、ミニブタの突然死が相次ぎ、病理検査、ウイルス検査から悪性カタル熱（ヒツジ随伴型）と診断されました。発症ミニブタから分離されたウイルスと、一緒に飼養している羊血液から分離したウイルスを遺伝子解析したところ完全に一致し、羊からミニブタへの伝搬が確認されました。羊との同居飼養をしないようにした後、発生はなくなりました。

このように本来他の動物には病気を起こさない細菌やウイルスなどが、豚に思わぬ病気を起こすことがありますので、豚舎には野生動物や豚以外の動物を入れない、入らせないように気をつけてください。



畜産農家の皆様 これからの季節はハエ対策を！！

これから梅雨に入り、気温、湿度が上昇します。梅雨は、ハエが大量発生する時期でもあり、ハエの発生は、畜産経営に起因する苦情の中でも大きなウエイトを占めています。加えて、農場が密集した地域では、ハエが農場間を移動するなど衛生的にも問題となるためハエ対策は重要です。

1 環境対策

ハエの発生する環境を作らないことが第一です。発生源は水気があって、幼虫の食べ物である糞尿、餌がある所です。そのため、定期的な除糞、残餌を除去し、畜舎内を清潔に保ち乾燥させることが重要です。除糞や掃除をしても、そのまま積んで放置しておくとならぬと発生源に逆戻りするので、糞尿は、堆肥舎やコンポで素早く堆肥化してください。幼虫は、堆肥の発酵熱で死滅するので、適正な水分調整を行い、1週間に最低1回は切り返しを行って十分に発酵させてください。

2 薬剤による対策

各薬剤の特徴は下表のとおりです。薬剤の使用については同じ種類を使い続けるとハエが抵抗性を持つので、長期の使用時には系統の違う薬剤をローテーションして使ってください。また、使用説明書をよく読み用量・用法を遵守するとともに、使用記録も記帳してください。

薬 剤		特 徴
幼虫駆除剤	IGR剤（成長抑制剤）	薬剤抵抗性が出ない。
成虫駆除剤	ネオニコチノイド系	即効性・残効性がある新タイプの殺虫剤。
	ピレスロイド系	即効性はあるが効果が短時間。
	有機リン系	即効性・残効性があるが抵抗性が出やすい。
	カーバメイト系	即効性だが、毒性はやや強い。

平成29年度 香川県畜産課関係組織体制

畜産課

農政水産部次長(兼) 秋山正英
 課長
 副課長 倉岡伊都子
 家畜防疫主幹 澤野一浩

【総務・経営グループ】

課長補佐(兼) 倉岡伊都子
 副主幹 平池直子
 主任 中村正也
 主任 谷本國博
 主任 澁市さつき

【生産流通グループ】

課長補佐 田淵賢治
 副主幹 田中宏一
 主任 三谷英嗣
 主任 上村知子
 主任 矢野敦史
 主任 北本英司
 主任 眞壁七恵

【衛生環境グループ】

課長補佐(総括) 大谷徳寿
 副主幹 山本英次
 主任 久保貴土
 主任技師 飯間彩花

東部家畜保健衛生所

所長 香川正樹
 次長(兼) 笹田布佐子
 家畜防疫主幹

【庶務課】

課長 三野桂一郎
 主任 藤岡 貴
 嘱託 佐藤直子
 臨時職員 蓮井綾華

【衛生指導課】

課長(兼) 笹田布佐子
 副主幹 上村圭一

【防疫課】

課長 泉川康弘
 主任 宮本純子
 主任 井上英幸
 獣医師 宮井俊二

【病性鑑定室】

室長 高橋茂隆
 主任研究員 森西恵子
 主任研究員 片山進亮
 主任研究員 土佐 進
 主任研究員 坂下奈津美

【小豆支所】

支所長 大西美弥
 嘱託 明田由加里
 嘱託 中岡和美

西部家畜保健衛生所

所長 光野貴文
 家畜防疫主幹(兼) 合田憲功

【庶務課】

課長 氏家 敬
 主任 細川 毅
 主任主事 渡邊 誠

【衛生指導課】

課長 高橋和裕
 副主幹 中嶋哲治
 技師 原 基

【防疫課】

課長 上原 力
 副主幹(兼) 中嶋哲治
 技師 川江早矢香
 獣医師 渡邊 博

【西讃支所】

支所長 合田憲功
 副主幹 渡邊朋子
 主任 萱原由美
 主任 山下洋治
 主任主事 東條君子
 獣医師 秋山正尊

畜産試験場

場長 白川 朗
 次長 野崎 宏

【総務課】

課長 岡 直樹
 主任 川口 潤
 主任 大江孝文
 主任主事 松村恵子

【酪農・肉牛担当】

主席研究員 松元良祐
 主席研究員 梶野昌伯
 主任 池田 誠
 主任研究員 三好里美
 技師 増川慶大

【飼料環境担当】

主席研究員 齊藤武司
 主任研究員 今雪幹也

【養豚担当】

主席研究員 笹田裕司
 主席研究員 向阪優雅

【養鶏担当】

主席研究員 川田建二
 主任研究員 森田えり

＜お知らせ＞

○6月15日は鶏などの定期報告書の提出期限です

鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥及び七面鳥の所有者の方は、平成29年2月1日現在の飼養羽数等について、6月15日までに定期報告書の提出をお願いします。

○家畜人工授精師養成講習会の開催について

本年度、家畜人工授精師(牛)を養成する講習会を次のとおり開催します。詳細は、5月中旬以降に県ホームページ等でお知らせします。

開催日 : 平成29年7月25日(火)～8月25日(金) (21日間)

開催場所: 県立農業大学校(琴平町:講義)、県畜産試験場(三木町:実習)

受講を希望する方は、最寄りの家畜保健衛生所へ連絡してください(申込締切:6月27日(火))。